

平成 22 年度鳥取県医師会秋季医学会

・ ・ シンポジウム抄録 ・ ・

日 時 平成 22 年 11 月 14 日 (日)

場 所 鳥取県医師会館 (1 階 研修センター)
鳥取市戎町 317

シンポジウム 11 : 18 ~ 12 : 00

「地域連携パスをどう考えるか？現状と課題」

座長 齋 藤 基 先生(鳥取生協病院 脳神経外科)

「脳卒中地域連携パス」 鳥取医療センター神経内科 金藤大三先生
「がん診療における地域連携パスについて」鳥取市立病院外科 山下裕先生
「糖尿病」 鳥取県立中央病院内科 榎崎晃史先生
「心筋梗塞」鳥取県立中央病院心臓内科 吉田泰之先生

脳卒中地域連携パス

鳥取県東部地域連携パス策定委員長（鳥取医療センター神経内科）

金 藤 大 三

地域連携パスでは各施設が診療方針を統一し到達目標を設定し施設間を超えた一貫した診療計画を作ることが最も重要な要素です。言い換えれば互いの合意（施設間を通じた診療計画）と理解（スタッフと施設）があり病院移動に不安がなくスムーズに流れることが患者にとって恩恵であり、今回の診療報酬はこれの対価といえます。では施設間を超えた診療計画を立てるにはどうしたらいいでしょうか。まず第一に脳卒中に関係する医療者が直接話し合うことは必須です。連携室だけでは治療内容の合意はできません。そしてパスはその話し合いを反映したものの、また反映されやすい形式をとる必要があることは言うまでもありません。初めから完成度は高くなくともよいが、鳥取県東部の話し合いが反映されたものこそ鳥取県東部脳卒中地域連携診療計画（地域連携パス）です。策定作業に関わる人は是非「患者のことを忘れたパスを作ってはならない。」と肝に銘ずる必要があります。

.....

がん診療における地域連携パスについて

鳥取市立病院外科 山 下 裕

平成19年6月に制定された「がん対策推進基本計画」大項目5・分野別施策及びその成果や達成度を計るための主な個別目標のなかの中項目（2）医療機関の整備等のなかに、すべての拠点病院において5大がんに関する地域連携クリティカルパスの整備が義務づけられている。がん患者の急増に対して人的医療資源の最大限の活用と、地域医療格差の是正（均てん化）を目指したものと考えるが、建前論は別にして、平成22年度の診療報酬改訂で「がん治療連携計画策定料」「がん治療連携指導料」が収載されるにおよび緊急の課題となった。

私は、地域連携パスの必須の要素として、出来る限り、EBMとガイドラインを遵守したがん診療が施行できること、現在実施されている病診連携が最大限活用可能なものと考えている。

鳥取大学がんセンターを中心とした拠点病院連絡協議会で、5大がんの術後連携パスのオーバービューの雛形は一応出来ているので、私の担当した肺がんについて提示し、情報の共有、役割分担に関する、私見を述べたい。

.....

糖 尿 病

鳥取県立中央病院内科 檜 崎 晃 史

1. 現 状

現時点で鳥取県下では糖尿病の地域連携パスは稼働していない。

2. あるべき姿

鳥取県が厚生労働省の「糖尿病の医療体制構築に係る指針」に基づき、県の保健医療計画の中で掲げている通り、初期・安定期治療をかかりつけ医が担い、専門医療機関は 急性増悪時治療 専門治療 慢性合併症治療を担当する。また眼科治療と透析治療は、かかりつけ診療所と専門の医療機関が担当し、互いに連携するというのが本来のあるべき姿である。

3. みちすじ

糖尿病診療は個々の患者で背景が異なるため、画一的な診療では対応が難しい。治療の標準化がなかなか容易ではないため、治療の標準化に向けて様々な取り組みが成されている。本邦では日本糖尿病学会が「糖尿病治療ガイド」、日本糖尿病療養指導士認定機構が「糖尿病療養指導ガイドブック」を定期的に刊行して、糖尿病治療、療養指導の基礎知識の普及を図っている。

また「初期・安定期」は「患者教育と合併症予防の時期」であり、十分な患者教育が必要な時期であるため、この時期を担う医療機関には教育機能の充実が不可欠とされている。「初期・安定期治療」を担う医療機関の選定要件に際しては、各都道府県で基準が定められており、鳥取県では平成20年度に作製された鳥取県保健医療計画の中で 糖尿病の診断及び専門的な指導 75g OGTT、HbA1c 等糖尿病の評価に必要な検査の実施 食事療法、運動療法及び薬物療法

による血糖コントロール 低血糖時及びシックデイの対応 専門治療を行う医療機関及び急性・慢性合併症治療を行う医療機関との診療情報や治療計画の共有等による連携の5項目が「かかりつけ医機能の医療機関」に求められる役割として掲げられている。

「初期・安定期治療」を担う「かかりつけ医」の更なるレベルアップを図るツールの一つとして、岡山県や徳島県などで活用されている日本糖尿病協会の登録医・療養指導医制度について簡単に解説し、併せて日本糖尿病協会が編集・発行する医療者にとっても患者にとっても有益な糖尿病情報誌である「月刊糖尿病ライフ さかえ」について紹介する。

.....

心筋梗塞

鳥取県立中央病院心臓内科 吉田 泰之

心筋梗塞患者の多くは、24時間365日、いつでも緊急受診できる環境を望むため、いつまでも心臓カテーテル検査室や、集中治療室をもつ基幹病院への通院を希望する。一方で、複数の疾患を併せ持つ高齢患者が多く、いくつもの診療科を受診することとなる。結果として、ひとりの病人として全体を管理してもらう体制となりえない。

病診連携をすすめること以外には、現実的な解決策はないが、連携の橋渡しである診療情報提供書は、一方的な病状照会となりがちで、ひとりの患者を協力して診てゆくという体制にはなっていない。地域連携パスにより連携がより強まることを期待したい。

心筋梗塞をはじめとした虚血性心疾患は、PCI術後の抗血小板療法、二次予防のための危険因子の管理などガイドラインが整備され医療の標準化もすすんできたため、病院ごとでなく地域で共有するパスが期待できる。

現在運用されている地域連携パスは、心筋梗塞に限定せず虚血性心疾患全体を対象としたものが増えてきた。心筋梗塞に限定せず、運用できる症例を増やしたほうが、普及に繋がると考えられる。